

障害のある人が舞台芸術を鑑賞したり、自分で演じたりするための支援が広がりつつある。知的発達障害者には、劇場に慣れてもらう体験会を実施。耳が聞こえない人が演技をするための手話通訳の養成講座も開かれている。東京五輪・パラリンピックを見据え、国も障害者の芸術鑑賞や参加支援を予算に盛り込み、後押しする方針だ。

「コンサートが始まる合図です。大きな音がしますよ。鳴つたら明かりが暗くなります」

障害者も舞台楽しく

12月4日、東京都文京区のホールで開かれた知的発達障害のある子どもらが安心して鑑賞するための「劇場体験プログラム」。はじめに司会者が、開演前のブザー音の理由などについて、約140人にゆっくりと語りかけた。

鑑賞体験会や手話通訳養成

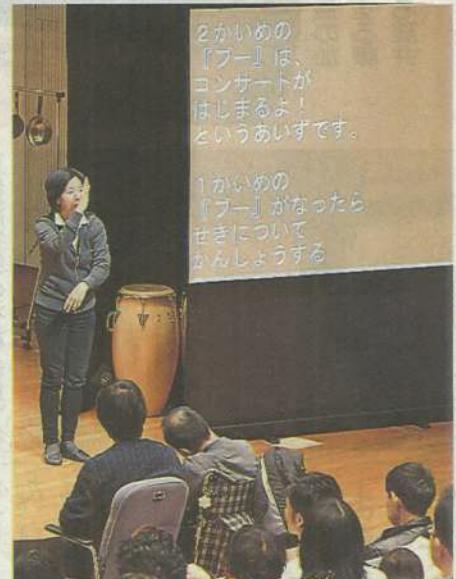
五輪・バラ控え 国も後押し

開催に協力した堺市の国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)によると、知的発達障害のある人は、日常とは違つて鑑賞するための「劇場体験プログラム」。はじめに司会者が、開演前のブザー音の理由などについて、約140人にゆっくりと語りかけた。

しめる可能性があるという。この日も、館内を暗くするユーサーの鈴木京子さんは、「行きたい劇場に行けるようになれば日常の選択肢が増え」と意義を話す。

カルを体験した。事業プロデューサーの鈴木京子さんは、「行きたい劇場に行けるようになれば日常の選択肢が増え」と意義を話す。

こうしたバリアフリー化は課題の一つ。厚生労働省は障害者の鑑賞支援や芸術参加を促進する費用を17年度予算案で拡充した。超党派の国会議員連盟も、障害者文化芸術推進法案をつくり、成立を目指している。



「劇場体験プログラム」で、観客に音や照明の理由を説明する手話通訳者=4日、東京都文京区

「おもしろかった」と笑顔で話した。ビッグ・アイでは、障害者向けの手話や点字によるサポートに加え、2014年からこのプログラムを開始。延べ約1900人が映画や音楽、ミュージカルを体験した。事業プロデューサーの鈴木京子さんは、「行きたい劇場に行けるようになれば日常の選択肢が増え」と意義を話す。

障害者が演じることを支援する活動も進んできた。NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワークは10月に「舞台・演劇における手話通訳養成講座を開催。受講者は聴覚障害のある役者への適切な通訳の方法を学んだ。20年の東京五輪・パラリンピックに向け、芸術分野での

鑑賞中に喜んで跳ねてしま

い、冷たい視線を感じること

と声を出して開演を待った。

もあつたが、鑑賞経験を積ん

だことで、ちゃんと座って見られるようになった」と喜びを語る。

障害者が演じることを支援する活動も進んできた。NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワークは10月に「舞台・演劇における手

話通訳養成講座を開催。受講者は聴覚障害のある役者への適切な通訳の方法を学んだ。

20年の東京五輪・パラリン

ピックに向け、芸術分野での

こうしたバリアフリー化は課題の一つ。厚生労働省は障害者の鑑賞支援や芸術参加を促進する費用を17年度予算案で拡充した。超党派の国会議員連盟も、障害者文化芸術推進法案をつくり、成立を目指している。